

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2014.03.No199

3月号

目次

震災特集「大震災3年後のふくしま」…1
平成25年度 高校生建築デザイン コンクール入選作品発表……………2
道士会の動き……………4
実行委員会報告……………5
〔地域貢献活動センター・総務〕
青年・女性の怒……………6
〔青年委員会〕
支部だより……………7
〔旭川・函館・桧山〕
information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>



大震災3年後のふくしま

(社)福島県建築士会前青年委員長 大 桃 一 浩

全国の方は東日本大震災から3年、というところ「もう3年も経った」と思われる方がほとんどだと思う。しかし私たち被災県民はまだ3年と思う。何故なら3年前と変わらない光景がたくさんある。恐らく何十年かけても変わらない光景もあるだろう。こういった光景を目にすると大震災は起こったばかりだといつも感じる。

福島県が他被災県と違うのは原発事故。放射能汚染が全てを変えている。福島県は海側を浜通り地方、中央部を中通り地方、新潟県寄りを含む会津地方と呼ぶが、3地方とも街並み、人、復興がまちまちである。会津地方は建物被害もほとんど無く街並みは以前のまま。しかし多くの避難者を受け入れている仮設住宅群があちこちに存在する。また災害復興公営住宅の建設も始まっており現在着工しているのは全てRC造。歴史ある会津の街並みは崩れてきている。

中通り地方は建物被害が多かったがすでに解体、改修がほぼ完了している。街並は更地が目立ち建物の連続性が切れている。公共建物や災害復興公営住宅も建設ラッシュだがRC造、S造が目立つ。また、一部の地域では放射線量が高く空家も目立っている。中通り地方は会津地方より多くの仮設住宅群が存在し一団地を形成しているようだ。復興住宅はハウスメーカーを筆頭に受注・着工が凄い。

浜通り地方は津波被害により沿岸部は甚大な被害を受け、建物は無く住宅の基礎だけが存在している。また、放射能汚染により立入出来ない区域も多く、地域住民が誰もいない区域は非日常的な空間にも感じる。沿岸部以外は復興住宅、アパート、災害復興公営住宅が建設ラッシュで、ここでもハウスメーカーが主流である。災害復興公営住宅は沿岸部の高台などでも着工しているが現在はほぼRC造だ。もちろん避難者の受入れ数はダントツで多く仮設住宅群はあちこちに見られ、仮設住宅が街並みを形成し

ているようだ。(ここで記載した災害復興公営住宅は原子力災害で避難している方を対象にしたもので、県内に4,890戸を計画している。)

福島県内3地方の現状を話したが、街並みは大きく変わっており、今後も変貌していく。

今後復興が進み、これだけの数の仮設住宅が撤去され公営住宅が建っていくとすればどんな福島県になるか。構造、街並み、コミュニティまで真剣に取り組まなければ美しい街並みとはならないでしょう。

建設業界も大きく、全てが変わってしまった。ある程度技術を持った人、専門職の人が建設現場から除染作業に移っている。日給も高く高度な技術も必要ないという事から、建設業界は除染作業をメインにしている会社も多い。そこには高い日給を目指し作業員の引き抜きも発生している。建築士までが除染作業監理を行っている例もある。となると、今まで現場に入っていた人が急に除染作業に廻り、建設現場は職人不足となる。更に復興住宅、災害復興公営住宅などの建設ラッシュも重なり極度の職人不足が生じている。公共工事、民間工事とも工期遅延が当たり前となっている。もちろん除染作業は非常に大事な事であり優先すべきである。だとすると工事発注の方法、工期の問題など課題をきちんと検証し見直さなければ建設業界はバブルと勘違いし、復興が完了した後はどうなるのか不安を感じる。あと数年除染作業は続くが、その間に建設業界の後継者は育つのか? 国、県、私たちが真剣に取り組むべき課題と思う。今のままでは除染作業、復興が完了した時、バブル崩壊後よりもダメージが大きくなってしまふ。

福島県内では多くの被災地区で住民主導、NPO主導などで復興が始まっている。復興に建築士が必要とされる今、私たちは積極的に参加すべきであり建築士の責務と思う。

平成25年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表

課題「公園内の休憩所」

公園・散策路を利用する病院の患者や関係者、地域住民が利用する休憩所の設計してください。
網走市の道立向陽ヶ丘病院の建替後の敷地に100m²程度の「休憩場」を整備することを想定

「高校生デザインコンクール」は、道民に愛され親しまれる公共建築物づくりを進めるため平成8年度より実施しております。このコンクールは、次世代を担う建築技術者となる道内の高等学校（建築系学科）に在籍する生徒から、夢のあるユニークなアイデアを募集するものです。さらに平成12年度より4団体（北海道、(公社)日本建築家協会北海道支部、(社)北海道建築士事務所協会、(社)北海道建築士会）の共催事業となっており、当会からは、まちづくり委員会鈴木副委員長が実行委員、滝田委員が選定委員となっております。

今年度は、6校100名から62作品の応募があり、平成25年9月28日に開催した選定委員会において最優秀作品1作品、優秀作品3作品、佳作4作品、特別賞2作品を選定いたしました。ここでは、入選作品の中から、最優秀作品、優秀作品を紹介します。

その他の作品は、北海道建設部ホームページをご覧ください↓

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kkr/homepage/designcontest.htm>

最優秀
作品賞

multi-direction

北海道苫小牧工業高等学校
星野 滉太（2年）
森下 夢巳（2年）

□設計趣旨

「道の一部」、「道と一体になる」ことをコンセプトに設計しました。

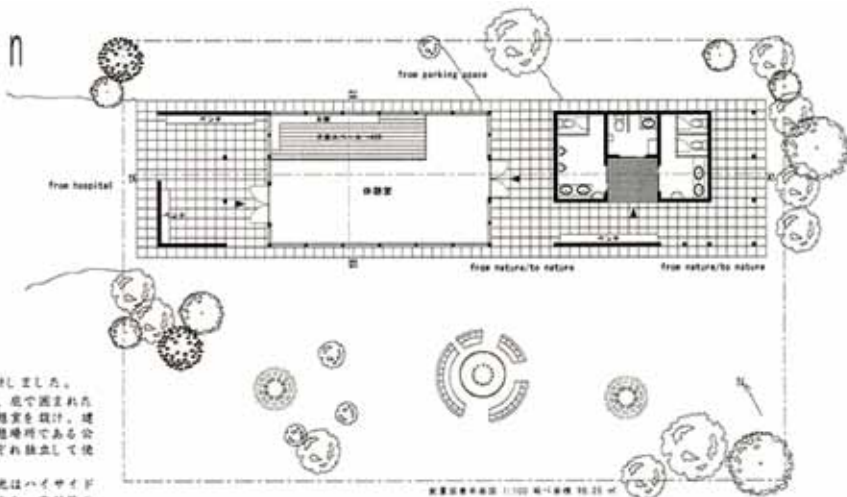
そこが目的ではなく、公園に行く道の中にあるという考えで、庇で囲まれた外に近い半外部休憩スペース（人がたまる空間）と内部の休憩室を設け、建物のまわりどこからでもアクセスすることができ、外部の休憩場所である公園と連続性を持たせています。休憩室とトイレは分離、それぞれ独立して使用することができ、管理面も考慮しました。

直線的でフラットなデザインとし、休憩室とトイレへの採光はハイサイドライトから取り入れ、アクセントとして高さを変えました。また、雪対策のため、緩やかに勾配を付けました。

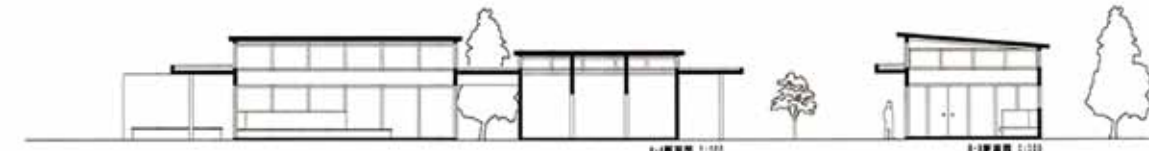
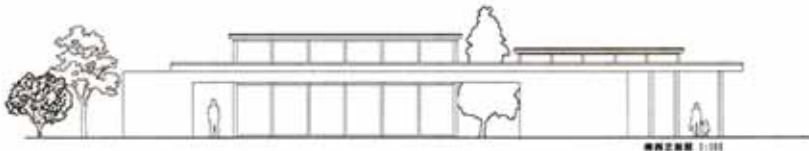
□審査講評

細長い矩形の屋根の下に内部空間と外部空間が線上に配置され、シンプルで立ち寄りやすさと光を取り入れた固有の空間がバランス良く両立されている。道の一部というコンセプトはなかなか良く、プランニングも利用性に優れているなどデザイン、コンセプトとも秀逸な作品であり、特に高く評価されました。

multi-direction



「道の一部」、「道と一体になる」ことをコンセプトに設計しました。そこが目的ではなく、公園に行く道の中にあるという考えで、庇で囲まれた外に近い半外部休憩スペース（人がたまる空間）と内部の休憩室を設け、建物のまわりどこからでもアクセスすることができ、外部の休憩場所である公園と連続性を持たせています。休憩室とトイレは分離、それぞれ独立して使用することができ、管理面も考慮しました。直線的でフラットなデザインとし、休憩室とトイレへの採光はハイサイドライトから取り入れ、アクセントとして高さを変えました。また、雪対策のため、緩やかに勾配を付けました。



優秀 作品賞

北海道札幌工業高等学校
奈良 綾弥 (3年)

AZALEA

設計趣旨

網走市の「まちの花」である「エゾムラサキツツジ」をモチーフに作りました。花は木製の構造体の役割もあり、ガラスのドームを支えています。建物内部はフロアの高さに差をつけて、壁を設けず3つの空間を作りました。階段とスロープで昇降できるようになっています。この建物は時間や季節によって姿を変えます。花の間の木漏れ日が心地の良い空間を演出し、夜にはライトアップされ、大きなツツジの花束のように見えます。また、四季によって光の演出を変え、特に冬には雪が積もり大きな「かまくら」となり、利用者が暖を取れる「ほっ」とできる建物となります。

この建物は利用するだけでなく、見て楽しく、そして癒され、周囲の環境とも調和し、まちのシンボルとなり地域に貢献できる休憩所となるでしょう。

審査講評

景観としての美しさと存在感、内部の変化のある空間は魅力的で花のモチーフが構造となり、シンプルで柔らかなイメージの中に強い個性があるなど、表現力、デザイン力が豊かな優れた作品として高く評価されました。



優秀 作品賞

北海道函館工業高等学校
秋本 祐輔 (3年)
品田 憲吾 (3年)

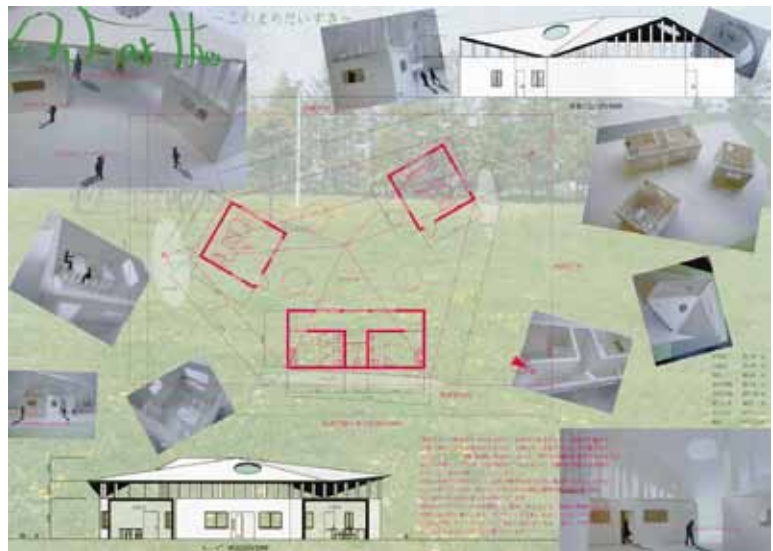
On Earth ~このまちだいすき~

設計趣旨

僕達は少しの散歩や外の光を浴びにくる病院の患者さんや、病院の見舞いや公園に遊びに来た地域住民の方々が、公園との一体感でゆったりと過ごせるイメージでこの「On Earth」を設計しました。便所と会議や休憩ができる室とを全く別の棟として計画し1枚の屋根でつなぎました。3棟の中央部分は屋根のかかった「風の広場」となっています。屋根は変形の六角形にして、屋根の積雪が落ちた時に動線や入口をふさがないようにしています。高さに上下差のある屋根と建物の間を風が通り抜け、また屋根の影が落ち様々な表情になります。病院からのアプローチと休憩所、公園が一体となるよう動線に配慮しました。屋根には天窗も備えてあり、ガーデンも楽しめるようになっています。この休憩所に来てくれた方々に「ああ、落ち着くなあ。過ごしやすいなあ」と思ってもらえるよう願っています。

審査講評

三つのスペースを傾斜屋根が覆うことで屋根が諸室から浮かび、軽快で、人々が集まりやすい場所を創出しており、外部空間を含め、魅力あるプランニングであるなど、コンセプトや表現力が高い作品として評価されました。



優秀 作品賞

北海道苫小牧工業高等学校
鹿戸 萌実 (3年)
齋藤 佑美 (3年)
中田 舞 (3年)

a part of nature

設計趣旨

この建物は、トイレと休憩所を別棟にし、独立して使用できるようにすることで、アクセス経路を2方向とし、人も風も通り抜けるように設計しました。

また、病院から駐車場や公園に流れるようなアプローチを考えました。

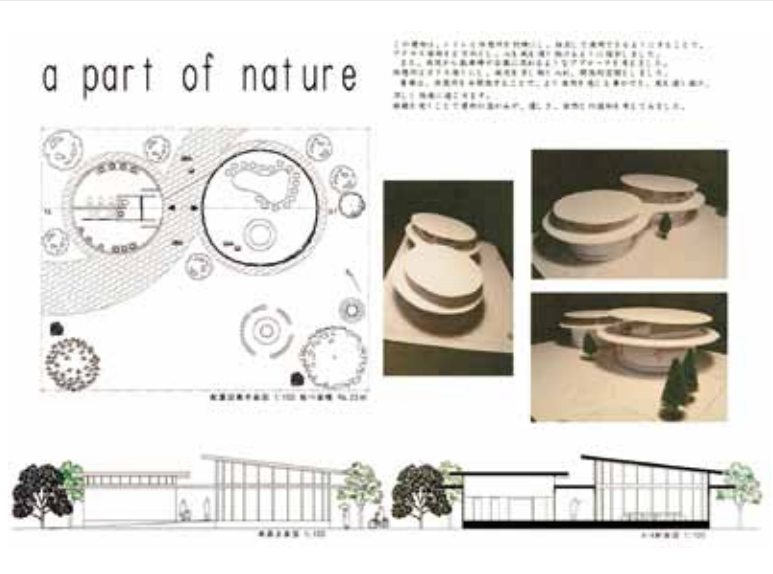
休憩所はガラス張りにし、採光を多く取り入れ、開放的空間としました。

夏場は、休憩所を半開放することで、より自然を感じる事ができ、風も通り抜け、涼しく快適に過ごせます。

曲線を使うことで建物の温かみや、優しさ、自然との調和を考えてみました。

審査講評

傾斜を持った円形二重屋根の2棟構成が創造性に富み、円形による明快な外壁と庇による一体化されたプランであり、特にガラスによる休憩所は、庭に開かれ、様々な可能性を感じるなど、ユニークさやデザイン性が高い作品として評価されました。



道本部の主な会議報告 (2月)

◆第1回女性委員会

(開催日) 2月1日(土)

(議題)

- 1) 新任委員について
- 2) 全道大会・分科会のテーマと役割 (9/27)
- 3) 女性建築士の集いについて (9/28予定)
- 4) 3部会活動について (北海道建設部委託事業 他)

◆第1回事業委員会

(開催日) 2月1日(土)

(議題)

- 1) 実行委員会の改選
- 2) 平成26年 事業計画 (案) 及び予算 (案)
- 3) 第57回建築技術講習会テキストの校正
- 4) 第57回建築技術講習会の講師の分担 等

◆第1回情報委員会

(開催日) 2月1日(土)

(議題)

- 1) 平成26年の事業計画・予算について
- 2) 会誌の年間スケジュール・HPの運営について
- 3) 会員作品発表について
- 4) 第39回全道大会分科会について 等

道本部の主な行事予定 (3月)

(開催日) 3月1日(土)

◆第1回総務委員会

◆第1回被災地応急支援特別委員会

(開催日) 3月8日(土)

◆第1回まちづくり委員会

(開催日) 3月11日(火)

◆平成26年定期監査

(開催日) 3月13日(木)

◆第1回理事会

(開催日) 3月28日(金)

◆平成26年北海道建築士会定時総会

◆第2回理事会

(開催日) 3月29日(土)

◆全道青年委員会連絡会議

関係機関等会議出席状況 (3月)

3月8日(土) 9日(日)

日本建築士会全国青年委員長会議 (東京)

針ヶ谷青年委員長、石塚副委員長、原副委員長出席

3月14日(金)

日本建築士会連合会理事会 (東京)

高野会長、石川統括理事出席

3月20日(木)

北海道建築士事務所協会懇親会 (札幌)

高野会長出席

3月24日(月)

日本建築士会連合会専攻建築士認定評議会 (東京)

高野会長出席

3月27日(木)

JIA登録建築家認定評議会 (東京)

高野会長出席

2013高校生の「建築甲子園」奨励賞 北海道札幌工業高等学校賞状伝達式

日本建築士会連合会が主催した2013年「建築甲子園」で奨励賞に選ばれた北海道札幌工業高等学校への賞状伝達式が3月4日同校校長室で行われました。高野会長、鈴木専務理事が出席し、これからの活躍にエールをおくりました。



建築士会会員 みなさまの声 大募集

情報委員会では、ひろく皆様から、ご意見・ご要望 (リクエスト) を募集いたします。「こんなこと知りたい」「わたしの主張」などなど・・・。
よりよい紙面づくり、ホームページのために会員みなさまの声をお聞かせください！メール (urakami@h-ab.com) またはFAX (011-222-0924)、郵送でも受付いたします。

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
(一社)北海道建築士会情報委員会 宛て



地域貢献活動センター委員会 委員会活動のご報告

委員長

久島 正嗣 (札幌支部)



この度平成26年、27年の地域貢献活動センター委員会の委員長をお引き受けいたしました札幌支部の久島正嗣です。どうぞよろしくお願いたします。

平成9年4月に日本建築士会連合会が地域貢献推進活動センターに助成事業を始めてから、全国の各建築士会にも地域貢献活動センターが設立されました。

北海道建築士会においては、平成21年6月に北海道建築士会地域貢献活動センターを立ち上げ、推進センターから支援を受けながら活動してまいりました。また、平成13年、北海道建築士会まちづくり委員会において「まちづくり活動奨励制度」が創立されてからは、道内各地で青年委員会や女性委員会を中心とした地域貢献活動に対して、技術や情報および活動費の一部を助成して、その活動の持続性や主体性を高めるとともに、建築士の社会貢献を支援してまいりました。昨年(平成25年)は、北海道建築士会地域貢献活動センター地域貢献活動基金事業助成として、1月から9月まで募集期間としてきましたが、応募いただいた2件の活動が助成の対象となりましたのでご紹介します。

1件は、宗谷支部からの「宗谷管内小学生による絵画コンクール『ぼくの・わたしのこころ一番』」と題された活動です。地域の小学生が「地域の建物」絵画コンクールを通して身近な建物に興味をもち、その興味が将来、建築や街並みへの関心へと繋がっていくことを期待します。

もう1件は、空知支部からの「第12回たきかわ紙袋ランタンフェスティバル～あかりものがたり～」活動です。市民参加型のイベントとして今後も継承され、なくてはならない文化として地域に定着し、地域の皆様との交流が今後一層深まっていくことを願います。

今年(平成26年)の助成申請は既に受付を開始しています。

北海道建築士会のホームページおよびリーフレット等で詳細を紹介していますので是非ご覧ください。

引き続き青年・女性・まちづくり各委員会とも連携し活動を広げてまいります。

是非皆様にふさわしい「地域貢献活動」の応募をお待ちしています。

総務委員会 総ては建築士のために

委員長

西岡 誠 (札幌支部)



宮原前委員長の後を引き継ぎ、総務委員長の大役を仰せつかることとなりました。身の引き締まる思いでおります。

さて建築界を取り巻く状況は、ひところの停滞気運から、東京オリンピックも開催されることもあり、一気に上昇機運に向かっているかに思えます。このまま右肩上がりですとなればよいのですが、そうはいかないだろうと警戒心も首をもたげます。不景気が長かったので、おいそれとは信じきれないのは私だけでしょうか。でも、せっかくの機会ですから、少しはのびのびと過ごしたいものです。

総務委員会も、新しい顔ぶれが加わり、新たなスタートを切ることとなります。最初の総務委員会は3月1日に開かれます。議題はその時々で変わりますが、命題として掲げられるのは会員の増強に係るものです。

ご存知かとは思いますが、長引く不況の影響もあり、建築士会の会員数は減少しております。新規建築士の数自体が減少していることが一因として挙げられますが、もともと建築士になったばかりの方々がすぐに建築士会に入るかということ、そうでもなく、ある程度たったのち、仲間関係、仕事関係等により勧誘され、建築士会に入ったという方々が多いのではないのでしょうか。私自身、会社から要請されてという少々情けない動機でした。

総務委員会では会員増強に係るアイデア出しをしていきたいと思いますが、特に、建築士になったばかりの方々にどうすれば会員になっていただけるか、良いアイデアがあれば皆様方にもお知恵をお借りしていきたいと思っております。

また、総務委員会は、建築士会の事業が円滑に行われるように活動することが主たる仕事かと思えます。継続して委員になられた方はもとより、新たに委員になられた方のご協力もいただきながら、それらの諸問題に取り組んでいきたいと思えます。

建築界でも日々、新しい動きが沸き起こっております。道内はもとより、国内、ひいては海外までそういった動きに目を向け、建築士としての自己を磨く必要があるかと思えます。新しい動きに対する情報収集、そして発信も行うことができたらと考えております。

「総ては(すべては)建築士のために。」

青年委員会

『札幌支部青年委員会の活動』

支部青年委員長

松本 純 (札幌支部)

会員の皆様には、日頃より青年委員会活動へのご理解とご協力をいただいておりますこと、紙面をお借りしてお礼申し上げます。札幌支部青年委員会は構成メンバー約25名、うち15名程で各種事業を行っています。支部事業も多く、実際皆仕事やプライベートを抱えて大変だと思いますが、みんな楽しそうなので、まあ良いかなと、、、いえ、本当に良い仲間です!! (笑)。札幌支部青年委員会では、3つの活動方針と他団体事業への参加という大きく分けて4つの活動を行っています。



「照明セミナー」この後のシミュレーションルームでの体験は非常に勉強になりました。

1つ目は「スキルアップ活動」です。建築士の資質向上を目指し、かつ青年委員会らしい楽しく気軽に参加できるような各種セミナーを開催しています。昨年は「照明セミナー ～近況のLED事情と明かりが及ぼす影響」、「設備セミナー ～せつびってなんだ?」、「第4回構造セミナー ～秘密のコウゾウSHOW」と、計3回のセミナーを開催しました。いつも講師の方には、座学だけではなく体感したり、話し合ったりする参加型のセミナーをお願いしています。照明セミナーでは照明シミュレーションルームでの体験、設備セミナーでは、かでの2・7の設備機械室の見学・説明、構造セミナーでは、ストーリー仕立てのプログラムに参加者もキャストとして加わり、プログラム進行に関わって行くという、飽きさせず、

かつ印象深く残るようなものをめざしています。



「設備セミナー」この規模の建物になると、機械設備が大きくて迫力があります。

また、セミナー後の懇親会では講師の方から裏話等もお聞きしながら楽しく過ごしています。おかげさまでどのセミナーも予定定員のご参加をいただき、無事終えることができました。

2つ目は「仲間づくり活動」です。具体的には、資格学校合格祝賀会に参加させていただき、建築士会の紹介を行ったり、新規合格者や未入会者を対象にした歓迎会「ウェルカムセッション」を行っています。仲間が増えることで事業の幅も広がりますし、そうして事業を成していくうちに委員会が一つのチームとなり、企画実行力が増すだけでなく、活動そのものが楽しいと感じられる。そこにまた呼応してメンバーが増えていく、というようなポジティブな渦を生み出したいと考えています。



「歓迎会」毎年少しずつではありますが仲間が増えています。

3つ目は「地域貢献活動」です。札幌市白石区の北郷親栄町内会様との協働で作り上げた「プラダンゴミサークル」が実績としてありますが、新しく子供たちを対象にした事業を展開したいと考え、昨年の本部青年委員会主催「建築のお仕事体験イベント」用に札幌支部青年委員会で作成した、「パズルでお部屋を考えよう」を発展さ

せ、子供たちへの景観教育や建築への興味を抱いてもらうような活用方法も検討しています。



「パズルでお部屋を考えよう」子どもたちの想像力には驚かされます。

4つ目の「他団体事業への参加」として札幌市等主催の「こどものまちミニさっぽろ」の建設ゾーン建築設計ブース、北海道開発局主催の「ダンボールシティ・イン・モエレ」へのスタッフ派遣を行っています。この他、道央ブロック協議会は、毎年1回は札幌開催ですし、支部事業「ビールパーティ」ではアトラクション、ゲームコーナーを担当し、来場者に楽しんでいただけるよう、毎年議論を重ねています。



「ビールパーティ」アトラクションのフラ・タヒチアンダンスは華やかで好評でした。

建築士会が、建設業界、社会に対して良い影響力を持った団体であるために、認知度の向上と会員増強に向け活動しています。紹介したいことが多くて紙面では、足りませんので、是非活動を覗きに來てください!



「札幌支部青年委員会の仲間」撮影者も含め(笑)写っていないメンバーも沢山います!

旭川支部

花のオッサンライダー

事務局長

中島 政利



10年前の50歳を迎えた誕生日。妻が「50歳の節目(?)だから、誕生日のプレゼントは欲しいものを買ってあげる」と言った。

これ幸いと長年思い描いていたバイクの免許が欲しいと言ってみると、妻は一瞬絶句したが、妻に二言はないと思ったのか「お父さんが欲しいなら・・・」とのこと。晴れて中型免許を取得したがバイクが無い。新しい免許証を見ながら出るのはため息ばかり。思い余って妻に「バイクが無いから乗ることができない」と涙ながらに訴えると、再び絶句。妻というのは強いものである。再び妻に二言はないと思ったのか「お父さんが欲しいなら」とのこと。喜び勇んで新車を購入。総額100万円近いプレゼントを手にした。かくしてここにオッサンライダーが誕生した。バイクは楽しい。混雑する道路でも、多少の障害があってもスイスイと走ることが出来、通勤にレジャーにと乗り回して残りの10年を過ごし、定年退職を迎えた。

縁があってこの度、旭川支部の事務局長を拝命して早1年。しかしこれはバイクのようにスイスイとは行かずクラッシュばかり。小さな障害でもまともにダメージを受ける。今までの職場とは仕事の内容がまるで違い、右も左も上も下もわからず右往左往した1年でありました。しかしながら、二人の事務局員が経験は浅いと言いながらも人一倍サポートしてくれ、会員の皆様からも温かい励ましをいただき、このオッサンライダーなんとか乗り切れそうな次第です。

これからも皆様のお力添えを頼りにしております。

函館支部

第34回「青函松交流会」

事務局長

渡辺 修司



平成25年8月、34回目となった「青函松交流会」が開催された。

今回のテーマは、「縄文」。函館駅で青森メンバーを出迎え、貸切バスで一路森町「鷲の木遺跡」へ、環状列石（ストーンサークル）を森町教育委員会職員に案内してもらい、次に国宝「中空土偶」を常設展示している「縄文文化交流センター」を見学、「ひろめ荘」で温泉に浸かり懇親会。函館名物「イカさし」に青森地酒「亀吉」を飲み交わし情報交換、次回、松山での再会を誓い、函館駅で青森メンバーを見送り解散となった。

すでに、「三内丸山遺跡」は見学しているが、遺跡発掘前はグラウンドだったことから、そこで親善ソフトボール大会をしていたので遺跡発掘を聞いた時には皆ビックリしたことを思い出します。

青函交流の一環として青森県建築士会青森支部と長い間交流を深めてきましたが、現在、ユネスコの世界遺産登録を目指し北海道・北東北で取り組んでいます。

青森県「三内丸山遺跡」

「亀ヶ岡石器時代遺跡」

秋田県「大湯環状列石」

北海道「大船遺跡」

「鷲ノ木遺跡」

「北黄金貝塚」

など15カ所の特別史跡や史跡からなる縄文遺跡群である。

出土品からは、その時代から既に津軽海峡を挟んで交流があったことが判明している。毎回この交流会に参加していて、不思議さとロマンを感じることがあります。

今後も交流を深め、互いの地域を知り、そこで頑張っている仲間とふれあい、まちづくりや建築の未来を語り合いたいものである。

松山支部

今年の活動に向けて

副支部長

佐藤 久



松山支部総会が平成26年1月25日開催され、無事終了。懇親会では来賓で函館支部から山内支部長、渡辺事務局長の出席があり当支部会員との交流を深めました。

今年の事業の主なものとして支部間交流として34回を数える青森・函館・松山の3支部交流会を松山支部が当番として開催します。何とか松山ならではの特色を出したものにしたいと思います。

また、今年江差線が廃止されず。江差線開通（昭和11年11月10日）から78年を迎え廃止（平成26年5月12日 - 木古内～江差間）されようとしています。支部では江差線を歴史的に地域の産業文化に多大な影響を与えたものとしてとらえ、これらのものを踏まえ何かを記すことが必要ではないかということで、シンボリックなものとして記念碑の設置に向けて取り組んでいます。

継続事業としては、地域貢献活動（江差景観環境形成ワークショップ）を予定。小学生と一緒に活動しながら、子どもたちにも建築に関心を持つきっかけとなってもらえればと思っています。（住環境教育は重要）



平成26年度社北海道建築士会松山支部通常総会

平成26年

(一社)北海道建築士会会員作品の募集

会員の創意と技術に満ちた作品を紹介することで、会員の技術力向上とこれを起点としたコミュニケーションによる士会活性化を目的とした作品展です。多くの会員の応募をお待ちしています。

応募対象

- ①対象建物 平成22年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その用途、規模等は問いません。ただし、確認申請を要しない建物は、検査済証は不要です。
- ②対象者 本会の正会員（応募建物の設計、及び施工管理者等、責任ある立場で建築に携わった者に限ります）
- ③応募作品 1人若しくは1グループで1点とします。

所有者等の了解

予め所有者、管理者等の了解を得てください。

応募締切および提出先

平成26年5月23日（金）必着

[提出先]

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地大五ビル6F
 (一社)北海道建築士会 事務局
 TEL: 011-251-6076 FAX: 011-222-0924

応募資料

- ①申込書 所定の申込書を本会HPからダウンロードして記入してください。
- ②提出資料 図面（平面図・断面図・配置図等）及び完成写真（内・外装）等の画像データ3点と上記申込書を、CD-ROMに記録して提出してください。（応募作品は返却しません）

作品掲載

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し「北海道建築士No205」に掲載します。

※詳細は、北海道建築士会HPをご覧ください。

HP <http://www.h-ab.com/>

来月号（北海道建築士No200）の会誌は、「総特集」掲載のため4月10日（木）の送付となります。

編集後記

厳しい冷え込みがゆるみだし、少しずつ日差しに力が感じられる季節になってまいりました。

今号が新体制による編集での初発行です。まだ右も左もわからないような状況ですが、メンバー一同、内容の充実、そして、もっと楽しめるよう刷新を図っていきたくて思っています。『変わったね』といわれるような紙面を目指します。今後の会誌にご期待ください。

情報委員会 齋藤 勝哉

CPD認定プログラム（2月認定）

◆第57回建築技術講習会

《日程及び会場》平成26年3月7日（金）
 13:25～16:30
 大五ビル2階会議室
 （札幌市）

《単位数》 3単位
 《問合せ先》 (一社)北海道建築士会
 TEL 011-251-6076

◆建築士向けセミナー「住宅紛争事例から学ぶ」

《日程及び会場》平成26年3月6日（木）
 18:30～20:00
 北海道建築士会事務局会議室
 （札幌市）

《単位数》 2単位
 《問合せ先》 (一社)北海道建築士会札幌支部
 TEL 011-222-0924

実務に役立つ建築法規解説2013 販売のご案内

平成26年1月～2月に開催の第47回建築基準法講習会で使用しましたテキストを販売いたします。

販売予定数に達した時点で終了となりますので、お早めにお求めください。



実務に役立つ 建築法規解説2013

編集＝全道建築行政連絡会議

第47回
 建築基準法講習会テキスト
 ◎A5判 ◎定価：3,500円

図書案内



資産価値の高い建築を提供するためのポイントと解説

◎第56回建築技術講習会テキスト
 ◎A4判：88頁 ◎定価：2,625円
 ◎発行日：2013年刊
 ◎発行：(一社)北海道建築士会

※送付希望の方へは書籍に請求書を同封の上、送料着払で発送しておりますので、FAXにてお申込ください。申込用紙は北海道建築士会のホームページからダウンロードできます。

【図書問合せ先】(一社)北海道建築士会 011-251-6076

情報委員会委員長／神田 光英
 副委員長／齋藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
 委員／高松 徹・熊谷 智・柳山美保子

北海道建築士 No.199号

印刷 平成26年2月／発行 平成26年3月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番